

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

話すこと・聞くこと部 研究主題

「求めて聞き、関わって伝える力」を育てるために

第5学年国語科学習指導案

単元名 わたしの「すき」を熱く語ろう！ ～聞き手を意識したスピーチをしよう～

日時：令和6年2月16日(金)5校時
児童：西東京市立田無小学校 第5学年1組 30名
担任：西東京市立田無小学校 主任教諭 室岡宗一郎
指導者：小平市立小平第五小学校 主任教諭 栗子 綾

1 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
〔知識及び技能〕(2)イ
- 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ
- 積極的に自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって、自分の好きなことについて話そうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ	「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) 「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	積極的に自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって、自分の好きなことについて話そうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

3学期になり、最高学年に向けて前向きに学校行事等に取り組むことのできる時期である。今のうちに人前で堂々と話せるようになりたいと感じている児童も多いだろう。

全国学力・学習状況調査の話すこと・聞くことの結果から、高学年の児童は全体的に見て、事実と自分の感想を区別して話す構成を考えること、目的に合った資料を選ぶこと、伝えたい事柄と資料を対応させて話すことに課題があることが分かった。そこで、本単元では、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように

表現を工夫することができる力」を付けていきたい。そのために、モデル動画を使って聞き手を意識したスピーチ内容を考えたり、効果的な資料を選んだり、話し方を工夫したりできるようにする。本単元で身に付けた力が児童らの自信となり、学校行事や委員会・クラブ活動等の様々な場面で生きて働くようにしたい。

(2) 学習材について（学習材観）

近年「推し活」という言葉が流行している。「推し活」という言葉は、2021年の新語・流行語大賞にもノミネートされるほど社会に浸透しており、経済効果も高い。児童にとってもそれは例外ではなく、それぞれ自分の「推し」をもち、恥ずかしがることなく堂々と「推し」の魅力を他者に伝えたり応援したりしている実態がある。そこで、本単元では人物からさらに枠を広げて「わたしの『すき』を熱く語ろう！」という話題を設定した。友達に自分のすきなことを認めてもらえるという学習活動は、児童にとって楽しい活動であり、話すことへの抵抗感や苦手意識を軽減できると考えた。また、人物等にしばらず枠をあえて設けないことで、児童が本心に伝えたい事柄を伝えることができ、主体的な学びにつながると考えた。

(3) 単元について（単元観）

本単元は「聞き手の心を動かすために、伝え方を工夫することができる力」を育成するために設定した。「自分のすきなことについて友達に話す」という相手意識・目的意識を設定することで、話したい、伝えたいという思いが生まれると考えた。自分のすきなことを相手に理解してもらうには、聞き手の心を動かす話をする必要がある。本単元を通して、聞き手の心を動かすには、自分の体験や資料と関係付けて話をしたり、聞き手が共感できる事柄を話したりすることが重要であることを実感できるようにしたい。また、単元末の発表時に友達と教師からの評価をもらうことで、人の心を動かすことができたか振り返ることができるようにした。振り返りを通して、自分の学びを自覚し、成就感が得られるようにしたい。

4 話すこと・聞くこと部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

話すこと・聞くこと部では、「話すこと・聞くこと」の学習における「言葉による見方・考え方をはたらかせること」を次のように捉えた。

言葉による見方とは、数ある言葉の中で、相手（対象）や目的、話題、聞き手に与える印象や聞き手の様子、話し手の意図や思いに即して使われた話し言葉の意味や働き、使い方に着目することと考えた。

言葉による考え方とは、聞き手の立場や思い、話し手の立場や思いに即して話し言葉の働きを捉え直したり、説得や推薦などの目的に応じてどのような言葉を使うとよいかを比較・吟味し、言葉の意味や働きを問い直したりすることと考えた。

これらの考えを踏まえて、どのような言葉を選び、どのような言い方で伝えれば相手に伝わるかを自覚化していくことが「言葉による見方・考え方をはたらかせること」であると捉えた。

5 研究主題に迫るために



(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

近年、「推し」という言葉が日常化し、休み時間も「推し」の話をする子どもも少なくない。「推し」とは「自分にとって特別な存在を様々な形で応援すること」だが、子ども達の受け取り方は幅広く、人物に限らず、アニメであったり、鉄道のような趣味であったりと様々である。そこで、友達が誰に興味をもっているのか、何が好きなのか、自分の一推しは何なのか、じっくり聞いたり話したりする言語活動を設定することは、今の5年生児童にとってまさにタイムリーで、高い学習意欲をもって取り組むことができると考えた。導入では、教師自身が好きなものについて熱く語る。教師の熱い語りを聞かせることで、この学習に対して興味を高めたり、言語活動を具体的にイメージしたりできるようにする。また、人に熱く語るができるようになるまでの過程でどのような準備が必要なのか気付く、言語活動の全体像に見通しをもつことができる。自分の「好き」を自分で選べること、熱く堂々と語っていい時間をとることは、児童にとって必然性の高い関心事となり、主体的に学習に望む姿勢となることが期待できる。また、自分の「好き」について語ることは、自身の内面からあふれ出る思いを言葉に乗せて表出することであり、必ずしも図書資料やICT機器で調べなくてもよい。それらは自分の言葉で語る上で必要に応じて活用すればよい。そのためどの言葉に着目してどのような構成で伝えると聞き手の心を動かすのに効果的であるか検証することに意識を集中させることができる。自分の好きなもの（こと・人）の何を伝えるのか、どう伝えるのかを追究することに終始することは、最後まで意欲をもち続け、主体的で対話的な学習につながると考えた。

児童の言語活動を支援するために、自分の思いを熱く語る好例となるスピーチモデルを用意する。スピーチモデルを活用することで、どの児童もスピーチの基本形である「はじめ（話題提示）・中（根拠）・終わり（感想・意見）」という構成を理解するとともに、誰もが同じ構成で話すことを身に付けることで友達のスピーチを

聞く際の目安にもなるというよさがある。

スピーチモデル（ゆっくり話して2分） _____ は聞き手も体験したことや共感できる部分

はじめ① 私の「好き」の紹介	私は「トレッキング」について話します。私は山道を歩きながら風景や自然を楽しむトレッキングが、大好きです。	
はじめ② トレッキングの説明	トレッキングとは、山歩きのことで、山の頂上を目指す登山とは目的が違います。だから、体力がちょっと心配な私でも、手軽に楽しむことができます。	
中① トレッキングの魅力はリフレッシュできる場所	トレッキングは思い切りリフレッシュできる場所が魅力です。私はこの間「日和田山」に行きました。みなさんも、 <u>去年の遠足で「日和田山」に登った経験がありますよね。</u> この写真を見てください。この景色に見覚えはありませんか。そう！これは「日和田山」からの景色です。 <u>途中、岩だらけの急な斜面を登って少し大変だったと思います。</u> でも、私はこの景色を見たとき、これまでの体や心の疲れが一気に吹き飛びました。みなさんもきっと同じだったと思います。	
中② トレッキングで楽しむのは食事の時間	そして一番の楽しみは、何と言っても食事の時間です。 <u>みなさんの中にも遠足で食べるお弁当を楽しみにしている人が多いと思います。</u> 箱を開けたときに、好きなおかずが入っていると、とても嬉しい気持ちになりますよね！私も自分が大好きなおにぎりを食べました。そのおにぎりのおいしいこと、おいしいこと！自然の中で食べるおにぎりは、いつもの百倍、いや千倍とっていいほど！おいしいんです！	
おわり みんなもトレッキングを楽しんでほしい	みなさんは6年生になったら移動教室に行くそうですね。そこで地蔵岳に登ると聞いています。どんな景色が見られるのか、今からわくわくしますね。仲間とのトレッキングはきっと最高の思い出ができますよ！ぜひ楽しんでください。	

(2)学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。

（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

自分の好きなもの（こと・人）を決めたら、その内容に関する情報を分類・整理する。聞き手の心を動かすためにどの情報が重要なのか取捨選択したり、順序を考えて組み合わせたりすることで、自分の思いを再構成していく。

第3時間目にはグループの友達にスピーチの内容や使う言葉など表現についてアドバイスをもらう時間を設定する。自分の「好き」を人に伝えるときには、その内容や分野に関わる専門的な言葉を使わざるを得ない場合があり、初めて聞く人には分かりづらいことがあると考えられる。また、思いばかりが先走り、基本的なスピーチの構成が乱れてしまうことも考えられる。これらのことに気付かせるために、グループの友達に相談したりスピーチを聞いてもらったりすることで、どのような情報をどのように伝えると自分の思いをより理解してもらえるのか検討する場としたい。伝えたいことのある言葉や内容（情報）の選び方や組み合わせ方、身振り手振りなどの表現方法には効果があったのか、説得力があったのかということについて振り返り、自分の思いがどの程度伝わったのか問い直す。

(3)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

SNSの普及により言葉は短くても簡単に意思を伝えることができるようになり、子ども達の語彙力の低下が懸念されている。そのような中で、言語で自分の意思を伝えたり、相手が何を伝え、こちらに求めているのかを考えながら聞いたりすることは、よりよく生きていく上で必要不可欠な力である。学校生活においても、自分の調べたこととそこから考えたこと、意見などを区別して相手に伝えることは、他教科や委員会、行事、特別活動等でも活用したい力である。また、聞き手に納得してもらうための言葉の使い方や選び方、論の展開の仕方等についても同様である。この単元で身に付けたい「自分の考えをもつ」「相手に的確に伝える」「相手の考えをしっかりと聞く」「相手の考えを受けて、自分の考えを広げたり、深めたりする」という力を日常生活に生かし、相手を認め、よりよく関わっていかうとする態度を育てたい。また、スピーチの特性として、「強調

する」「抑揚を付ける」「聞き手を巻き込む言葉を使う」など、内容をよりよく伝える上で効果的な部分にも意識を向けさせることで、聞き手を魅了できるような熱い語りを展開させたい。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法	
第一次 話題の設定 情報の収集	1	1 指導者の好きなことの話聞く。	○スピーチを聞いて心が動いたかどうかを尋ね、聞き手の心を動かすために自分の「すき」を熱く語るための学習計画を立てる。		
		2 学習計画を立てる。			
		わたしの「すき」を熱く語ろう！			
		3 自分の「すき」を決める。 ・自分のすきなことを書き出す。	・ピラミッド型のワークシートを使って、一番すきな事柄を考えられるようにする。		◆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。〔知識・技能〕 (2)イ ★ワークシート・交流の様子
		4 自分が伝えたい事柄を決める。 ・伝えたい事柄を集める。(個人)	・すきな理由を思いつく限り付箋に書く。		
5 本時の振り返りをする。					

第二次 内容の検討 構成の検討 考えの形成	2 ・ 3	1 本時のめあてを確認する。		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> スピーチの構成を決めて話そう。 </div>		
		2 どのような事柄を選べばみんなの心を動かすことができるか考える。 ・スピーチモデル①と②を参考に考える。	○人の心を動かすスピーチをするためには、好きなことのよさを伝えるとともに、聞き手を意識したスピーチをすることが重要であることを確認する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ～みんなの心を動かすには～ ・自分の思いを熱く伝える ・ みんなに共感してもらうことが大事 共感してもらうには… ①聞き手も同じ経験がある ②聞き手も同じ気持ちになれる </div>		
		・自分が伝えたい事柄を決める。 (個人・2～3つ)	○聞き手も①同じ経験があるか②同じ気持ちになれるかという観点で選ぶようにする。	
		3 スピーチメモを作成する。 ・スピーチメモの書き方を知る。 ・はじめ・中①・中②・(中③)・終わりに分けてスピーチメモを作成する。(個人) ・構成を決めてスピーチカードに番号を付ける。(個人)	○スピーチメモのモデルを提示し、中には聞き手を意識した体験や気持ちを書くことを伝える。 ○スピーチカードは3色の短冊にまとめる。(はじめ⇒黄 中⇒青 終わり⇒赤)	◆「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。[思考・判断・表現] A(1)イ ★スピーチメモ、交流の様子
		4 決まった構成でスピーチをする。	○途中、ペアでの交流を行うことで、聞き手を意識したスピーチメモになっているか、互いにアドバイスできるようにする。 ○資料についての確認や準備の仕方について話し、各自課外で準備ができるようにする。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〈資料とは…〉 ・実際の様子を見せたい ⇒写真・動画・実物・絵・音楽 ・数を伝えたいとき ⇒グラフ・表・ランキング ・図を使って伝えたいとき ⇒図 </div>		
	課外	○第3時と第4時の間を一週間ほど空けることで、スピーチの練習と資料の準備ができるようにする。		

4 本時	1 本時のめあてを確認する。		
	効果的な資料を考えて、聞き手に自分の考えが伝わるように話そう。		
	2 効果的な資料とはどのような資料かについて考える。 ・スピーチモデル3を参考に考える。	○資料をいくつか用意しておき、どの資料が伝えたい事柄に適しているか考える。	
	3 どのような資料を用いたらよいか考えながらスピーチをする。 ・必要な資料を考えながらスピーチをする。(個人) ・互いのスピーチを聞いて、効果的な資料について考える。(グループ) ・決定した資料をスピーチメモに書く。 ・もう一度スピーチをする。(個人)	○スムーズにスピーチができるように課外で練習しておく。	
4 本時の振り返りをする。			
5	1 本時のめあてを確認する。		
	話し方を工夫して、聞き手に自分の考えが伝わるように話そう。		
	2 聞き手に伝わる話し方について確認する。 ・スピーチモデル4を参考に考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て話す。 ・表情豊かに話す。 ・身振り手振りを加えて話す。 </div>	○児童から声の大きさや話す速さ、抑揚について出てきた場合は、受け止めつつ別枠として考えられるよう分けて板書をする。 ○聞き取れる声の大きさで、口をしっかりと開けてははっきり話すことは基本として大事にするよう伝える。 ○タブレットを使って録音し、自分のスピーチを振り返る。 ○途中でよい話し方をしている児童を紹介し、学級全体の学びが深まるようにする。	◆「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 〔思考・判断・表現〕A (1)ウ ★スピーチの様子、交流の様子
	3 スピーチの練習をする。 ・個人で練習する。 ・グループで聞き合い、アドバイスし合う。		
4 本時の振り返りをする。			

第三次 表現 共有	6	1 本時のめあてを確認する。		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">わたしの「すき」を熱く語ろう！</div> <p>2 スピーチをする。(学級全体)</p> <p>スピーチの流れ</p> <p>①スピーチをする。(1分～2分)</p> <p>②感想を聞く。(数名)</p> <p>③聞き手が評価をする。(全員)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈聞き手による評価項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いが伝わった。 ・内容が分かりやすかった。 (資料を含む) ・もっと話が聞きたい。 ・自分も興味をもった。 ・表情がよかった。 ・身振り手振りがあってよかった。 </div> <p>3 単元の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で振り返る。 ・学級全体で振り返る。 	<p>○資料はテレビ画面に映す。</p> <p>○聞き手は Google Forms を使って話し手を評価できるようにし、必ず1つはチェックを入れるよう伝える。</p> <p>○聞き手が行った評価の集計結果をグラフで表すことで自分のスピーチのよい点や改善点に気付けるようにする。</p> <p>○評価は後日書面にして児童に返すことで、学習の成果が手元に残るようにする。</p>	<p>◆積極的に自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって、自分の好きなことについて話そうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>★スピーチの様子、振り返り</p>

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 本時のめあてを確認する。		
効果的な資料を考えて、聞き手に自分の考えが伝わるように話そう。		
<p>2 効果的な資料とはどのような資料かについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈効果的な資料とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容と合っている。 ・伝えたいことが分かりやすい。 </div> <p>・スピーチモデル3に合う効果的な資料について考える。</p>	<p>○資料をいくつか用意しておき、どの資料が伝えたい事柄に適しているか考えるようにする。</p> <p>○聞いたり読んだりすれば分かること(伝えたい事柄を文字化して</p>	

3 効果的な資料について考えながらスピーチをする。

・必要な資料を考えながらスピーチをする。(個人)

・互いのスピーチを聞いて、効果的な資料についてアドバイスし合う。

(3・4人グループ)

〈交流の仕方〉

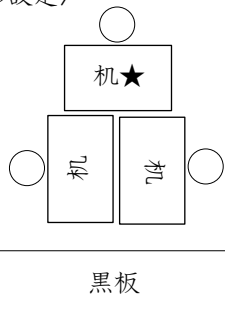
①スピーチをする。

②アドバイスをもらう。

↓

次の人がスピーチをする。

〈場の設定〉



・決定した資料をスピーチメモに書く。(個人)

・もう一度スピーチをする。(個人)

4 本時の振り返りをする。

・めあてに対する振り返りをする。

いる場合など)は効果的な資料ではないことを確認する。

○事前に用意した資料の中から効果的な資料を選ぶようにする。

○資料を選ぶだけの活動にならないように、本時では資料を探さないことを伝える。

○聞き手は、①話の内容と資料が合っているか②伝えたいことがよく分かるかの観点で話し手にアドバイスするようにする。

○よいアドバイスをしているグループがあったり、アドバイスの仕方に関して助言が必要になったりした場合は、活動を途中で止めて伝える。

○話し手は机★の場所で、立ってスピーチを行うようにする。

○用意した資料と違う資料が必要になった場合は、次の授業までに準備しておくように伝える。

○資料を活用したことでより分かりやすいスピーチになったことを実感できるように価値付ける。

○友達とアドバイスし合ったことで、よりよいスピーチになったことを実感できるように価値付ける。

◆「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。〔思考・判断・表現〕A(1)ウ

★スピーチの様子、交流の様子

○ おおむね満足できる児童への本時以降の手立て

資料を出すタイミングを考えたり、資料を出すときに使うとよい言葉を考えたりしながらスピーチをするよう助言する。また、友達のスピーチを聞きアドバイスするよう助言する。

○ おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て

友達と一緒に効果的な資料を考えたり選んだりするよう助言する。